

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381232

研究課題名(和文)体系的な対外認識育成をはかる外国史教育方法論に関する日独比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study for the Educational Practice Methodology in Foreign History Education between Japan and Germany to Cultivate the Abroad Recognition systematically.

研究代表者

佐藤 公(SATO, Ko)

明治学院大学・心理学部・准教授

研究者番号：90323229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：対外認識育成をはかる外国史教育方法論は、「時間的認識」と「空間的認識」の統合的把握を目指す外国史教育実践を支える教材の多様性、及び学習課題を具体的に認識可能とする学習活動との相互関連を通じて一層効果的になる。

教材としての「歴史地図」は、「時間的認識」の観点から、文化や民族、宗教といった生活の基底を共有する人間活動を対比的に説明する方法としての「時代区分」認識を育成し獲得する材料として有効である。同様に「空間的認識」の観点から、人間活動の基底を地域や空間の区分を成立させる気候や風土に求める側面と、人間活動の広がり及び空間的拡張への欲望を示す側面へと迫る有効な材料となる。

研究成果の概要(英文)：The educational practice methodology in foreign history education cultivate the abroad recognition becomes more effective through mutual relation of the following two points. One is the recognition for the diversity of teaching materials that support the practices aiming at unified understanding of "temporal recognition" and "spatial recognition." The other is the learning activities make it possible to specifically recognize learning tasks. "Historical map" as a teaching material effectively fosters and acquires the recognition on "period classification" as a method to compare human activities sharing the basis of life such as culture, ethnicity, and religion from "temporal recognition." From "spatial recognition", it is important to consider the aspect of seeking the foundation of human activity as an environment that establishes the division of regions and spaces, and the effective material that draws on the aspect of spreading human activities and desires for spatial expansion.

研究分野：教育学

キーワード：教育学 教科教育学 社会科教育学 歴史教育 外国史 歴史地図 時間認識 空間認識

1. 研究開始当初の背景

日本の社会科教育学及び歴史教育学研究は、我が国の伝統と文化、郷土を愛する態度養成と共に、国際理解・国際協調の視点に立ち国際社会の平和的発展を支える資質育成を目指す教育実践の創造に取り組んでいる。しかしながら、国内外において、歴史認識に関する相互理解めぐり多くの論争が絶えず繰り返されている。

このような社会情勢のもと、主に日本以外の国・地域の歴史を学習内容として扱い、対外認識の育成を通じ国際理解を進める上で外国史教育、すなわちその役割を担う中核的な教科目「世界史」教育に課せられた役割は、ますます大きなものとなっている。その条件を探究する上で、これまで、歴史教育史及び歴史教育に関する国際比較研究を通じて明らかにしてきた学術研究と教授活動・教材との関係を援用し考察を重ねてきた。具体的には、戦前期日本の外国史教育において、「東洋史」の扱いに着目しつつ、「世界史」教育成立の基底を探る、歴史学説史研究との関連に基づく考察である。探究過程において、「東洋」「西洋」の二分法から脱却し「世界」を一体のものとしてとらえようとした対外認識に基づく当時の外国史教育が、政治体制の成立と変遷を捉えたいわゆる国家史ではなく、新しい歴史像の構築とそれに関わる論争を展開していた当時の歴史学説研究との関係性に基づき成立していたことを明らかにした。

さらに、対外認識の育成を目指す我が国の外国史教育のあり方が、地理学及び地図作成学の成果と連携することで、時間的・空間的に統一された「世界像」の認識を促進し、外国史教育をより一層充実させる内容構成に関する考察へと発展させてきた。具体的には、外国史に関する学習内容の選択・排列の見直しと、その再構築が求められている教科目「世界史」の捉え直しの観点として、メディアとしての「歴史地図」を活用した外国史教育の実践方策を対象として検討を行った。「歴史地図」を用いた通史学習は、時間軸と空間軸を統一的に把握するための読図の観点やスキル、さらには調査活動や対話といった理解を促進・深化させる組織的な言語活動、さらには PC やタブレットを用いたメディアリテラシーの利活用を通して、歴史学習活動の深化をはかりつつ、促進する外国史教育の実践方策であった。

以上の考察結果を踏まえ、歴史地図より認識しうる、時間的・空間的に統一された対外認識としての「世界史」像の教育的有効性を明らかにするため、日本と他国(ドイツ)との比較検討を通じて、具体的な認識すべき内容を選択・排列し、学習者へと伝達する営みとしての教育実践の方法論を探究し有効性を明確にするため、実践と評価に基づく実証的研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、21世紀を迎えグローバル化が一層進展する現代社会の要請に応える社会科教育創造をめざし、体系的な対外認識育成をはかる外国史教育方法論のあり方について、実践方策及び実践活動に関する計画・実践・評価・改善のサイクルの検討を通じて、実証的に明らかにする研究である。

具体的には、学習者の対外認識の獲得と促進に資する教材である「歴史地図」を活用し、教授内容及び活動の選択・排列、実践、評価を通じ、歴史教育課程運営に関する方法論とその有効性を明らかにする。すなわち、地域性と時代区分に基づく「歴史地図」の選択と排列に基づき、日本での外国史教育(「世界史」学習)における体系的な対外認識育成と、実施方策の体系化による実践構築を目指す。

この実践方策及び実践構築に関する理論的探究の成果は、歴史地図学習を通じて育成される時間的・空間的認識の統一的把握によって、新時代の国家・社会の形成者となる児童生徒の資質育成をはかるための、よりよい外国史教育の学習内容の選択と排列に関する内容構成原理、そして原理から具体化される実践像を追究するための知見を提供するものとなる。

つまり本研究は、地理と歴史という異なる学問領域の成果を結びつけ、相互に共有・享受するものであることから、学校教育の教科目と周辺科学との関係性について概念モデルを提示するものである。多様な学問体系との連携が必要とされている社会諸教科の実践モデルとして、グローバル化が進む新時代の課題である多文化共生社会を支える学力や資質育成を担いうる、新たな学習内容体系の構築とそれを支える方法や教材開発を促す原理に関する知見を切り開くことが期待できる。

3. 研究の方法

本研究は、外国史教育実践を構成する歴史地図の二つの要素(「空間的認識」「時間的認識」)及び三つの方法的要素(「計画」「実践」「評価」)に基づき、外国史教育実践を創造するための考察を比較・横断的に実施する構造を有する。

以上に示した本研究の課題解決に向けた研究方法を大きく整理すれば、以下の三点となる。

(1) 「時間認識」と「空間認識」を統一的に把握するための史資料選択及び活用に関する調査分析を通じた、「歴史地図」活用要件と活用可能性の明確化。

(2) 時間的認識及び空間的認識という二つの観点より、専門用語とその背景にある教育学的概念、及び学習指導案等教育実践を支える資料にあらわれた「歴史地図」の教材性に

関する考察。

(3) 日本での外国史教育における通史的「歴史地図」活用の計画・実践・評価を想定した、時間的・空間的認識の統一的把握に資する対外認識のための教育方法論の解明。

これら研究方法の特色及び独創的な点は、以下の三点に整理される。

時間的・空間的認識の統一的把握を地図作成学に関する学説研究並びに知見について、歴史教育学研究へと導入する際の方策及び特色を解明する点にある。本研究の基盤は、「世界史」という日本独自の歴史教育内容領域に関するものであり、かつ国家の政策による影響を受けやすい歴史教育固有の性格から、国際的には類を見ないものである。

時間的・空間的認識の統一的把握を外国史学習で実現するための具体的な方途を示しうる点にある。体系的な「歴史地図」の活用により、単に限定的な時代や文化圏における単独な事象としてではなく、通史的かつ空間を横断した対外認識を強化・促進しうる点にある。

一次資料としての「歴史地図」の特徴を生かし、メディアリテラシーの活用と、それら発見や調査の結果をもとにした言語活動の促進と充実を外国史教育全体で図る点にある。社会諸教科に限らず、習得した知識を活用し、それをもとに探求する指導計画の作成と内容の取扱い方の工夫が強く求められている。

すなわち本研究は、授業実践を支える教材であり方法論として「歴史地図」というメディアから直接地理的・歴史的情報を読み取り、成果を介して生徒同士が知識を深め合う学習組織づくりを促進しうる授業像とその実践の創出に資するものである。

4. 研究成果

本研究成果を目的及び方法に即して整理すれば、以下の三点となる。

(1) 外国史教育のための実践を支える歴史教授法については、歴史教育実践を支える教科書とその教師用指導書、及び、日本の学習指導案やそこに示される歴史教育学の基本用語に相当する、ドイツにおける歴史教授法に関する基本的な事項を解説した資料、歴史及び地理教科書、並びに歴史教授法に関する雑誌等学術刊行物の読解を通じて、教育実践に関する学術用語とその原理的な意味内容の確認を行った。あわせて、資料に例示された具体的な歴史学習内容とその活動計画について確認と検討を行い、日本と比べドイツにおける歴史学習論では、歴史に関する学術的研究手法に関わる概念を、学習課題としてのみならず、学習過程へと積極的に位置づけていることを指摘した。

「歴史地図」活用に向けた史資料とその扱いについて、ワイヤレス環境とタブレットPCの普及に支えられて、教材となる史資料のマ

ルチメディア化及びデジタル化が確実に進行している。その一方で、パズルやカードといった教材を用いて具体的な身体活動を促す、いわゆる「ハンズオン教材」の増加もまた、歴史学習内容と学習スキルの習得とその定着に積極的に活用されている。

(2) 「時間的認識」の観点から考察した外国史教育における教材としての「歴史地図」は、文化や民族、宗教といった生活の基底を共有する人間による活動記録という意味において「時間的認識」を捉え、異なる時間における人間活動を対比的に説明する方法としての「時代区分」認識を育成し獲得する材料として有効である。

特に、古代・中世といった16世紀以前における「諸地域」の時間的・空間的認識を異なるものとして提示しつつ、そのような認識がどのように変容しつつ結合していくのかといった観点を捉えるには、伝統的時代区分である「古代・中世・近世」三時代間に見られる相違とその要因を明確に把握すると共に、異なる時代に生きる人間の時間認識とその変容を対比的に考察するために有効な材料である。

「空間的認識」の観点から考察した外国史教育における教材としての「歴史地図」は、時代区分論自体の多様性とその相違を生成した人間活動の基盤を地域や空間の区分を成立させる気候や風土に求める側面と、当時の人間活動の広がり、さらには空間的拡張を欲する範囲としての空間認識を示す側面から、「空間的認識」を育成し獲得するために有効な材料である。

「歴史地図」は、特に、地域世界の一体化が進行する16世紀以降の地球世界の成立を考察する場面において、成立過程としての時間的経過に加え、異なる空間毎に有する多様性の読み取りを可能とする点において、積極的活用が可能となる。16世紀以降の諸地域世界の「一体化」が単なる地理的・空間的一体化ではなく、当時の人間活動を成り立たせる過去の人間の認識記録である歴史地図の変容から確認する手法は、異なる社会や文化の変容を体系的に捉え対外認識の獲得を一層有効に進める方策である。

(3) 時間的認識及び空間的認識の統一的把握に資する対外認識の獲得を目指す教育実践のあり方は、教育実践を支える教材の多様性及び博物館等社会教育施設における学外での臨地調査といった学習活動との相互関連を通じて一層効果的に図られる。

時間的認識を通じて空間的認識の変容をとらえ、対外認識を獲得する方法として、学習者自身の手で各時代の特色に合わせた史資料とその読解を行うことが有効である。このような活動を可能にするための材料として、教科書は、国民の共通理解と基盤とすべき歴史叙述を主としつつも、その叙述の周辺に位置づく学習課題をその探究を支える史資料を掲載している。そのような叙述を裏付

け、同時に抽出された学習課題を追究する場面において副読本や資料集に相当する関連資料が出版されている。特に、デジタル化された歴史地図は、メディアの活用を通じた対外認識育成にあたり、時間的変遷の探究場面において空間的認識に関する情報と視点を与えるものである。

空間的認識を通じて、時間的認識の変容をとらえ、対外認識を獲得する方法として、博物館等社会教育施設のプログラム活用や、地域調査を通じた歴史的事象の痕跡の掘り起こしと活用が有効である。学習者にとっての現実の生活空間にも歴史の変遷とその痕跡が位置づいていることを実際に経験してこそ、抽象的な概念にとどまりがちである時間的認識と空間的認識を、学習者自らの生活の中で統一的に見出すことを可能にする。

5．主な発表論文等

〔図書〕(計 4 件)

土屋忍(編著) 佐藤公 他、世界思想社、武蔵野文化を学ぶ人のために、2014 年、366 頁

藤崎真知代・松村茂治・水戸博道(編著) 佐藤公 他、風間書房、教育発達学の構築、2015 年、366 頁。

唐木清志(編著) 佐藤公 他、東洋館出版社、「公民的資質」とは何か 社会科の過去・現在・未来を探る、2016 年、166 頁。

井田仁康(編著) 佐藤公 他、古今書院、教科教育における ESD の実践と課題～地理・歴史・公民・社会科～、2017 年、297 頁。

6．研究組織

(1)研究代表者

佐藤 公(SATO, Ko)

明治学院大学・心理学部・准教授

研究者番号：9 0 3 2 3 2 2 9